



晴天の心

立教 185 年 6 月号

大阪府富田林市寿町 4-9-10

URL:www.tomiishi.net

TEL:0721-23-3466 090-5243-4669



月次祭 6月19日(日) 午前10時～

婦人会例会 6月9日(木) 午前10時～

4月より南河内支部3組の組長を3年間することになりました。組長をするのは10年以上前に、旧の組体制の時以来久しぶり。支部にはずっと関わって来てはいましたが、意外と組のことは任せて手を出していなかったのが戸惑うこと多数。ジタバタして今月の月報作成が遅れていました。幸い前任者がとてもきちんと処理されていたので引き継ぎや会計はわかりやすかったのですが、大きな問題もありました。それは、このコロナの影響で様々な活動を行っていないことから活動費が貯まりすぎていたことでした。

先月の組例会にて出席された方の意見も聞いて、一度一定額を還付することで了承されましたが、いつまで続くのかわからない行事開催の規制。難しい世情です。

とは言っても、感染対策をきちんとすれば3年前とは違い各種行事も開催できるようになってきました。3年間でそれぞれ一人一人が予防策を意識できるようになってきたともいえるのでしょう。

まだまだ収束とは言いがたいですが、少しでも早く収束するように日々願いながら、様々な活動を再開していきたいと思えます。

里親サロン 再開のお知らせ

日時 毎月28日10時～12時(7月・12月は無し)

会場 教務支庁

連絡先 北村 浩(080-1525-1903)

※ 可能なら事前に参加希望を北村まで連絡ください。

事前連絡がなくても参加可能です。途中の入退出もできますので、気楽にご参加ください。

* 教区里親会 *



今日の
おやのことば

「大きい声で」

こそ／＼話はすつきり要らんで。

直ぐと／＼大きい声で話し、

陰々の話は要らん。



おさしづ 明治26年12月6日

春先から初夏にかけて、里山に暮らす楽しみの一つは、朝の鳥の鳴き声を聞くことです。

耳をすまさないと聞こえないような、か細いさえずりから、思わず驚くような奇妙な鳴き声まで、さまざまなバリエーションを楽しめます。私たちの朝のあいさつのように、鳥たちも互いに声をかけ合っているのでしょうか。

窓を開けて外の空気を大きく吸い込むと、一羽の鳥の澄みきった鳴き声が、空に染み入るように響いています。何という名の鳥なのでしょう。美しい鳴き声に聞き入りながら飛び交う鳥たちの姿を眺めていると、鳥たちのさえずりが、まるで人間同士の会話のように思えてきます。

「こそ／＼話はすつきり要らんで。直ぐと／＼大きい声で話し、陰々の話は要らん」

早朝の鳥たちの鳴き声は、たとえ空気を震わせるほどの音であっても、子供たちが目を覚ますことはありません。それほど優しく、心地良い響きです。

でも、私たち夫婦の毎日の会話はどうでしょう。子供たちや周囲の人々へ語りかけている言葉は、聞いている人を幸せな気分させるような響きを持っているのでしょうか。

先ほどと同じ鳥の声が、再び青空に響いています。この鳥のように、どこの誰にでも届くような声で話し、いつでも誰にでも、心地良く感じられるような言葉を使える人になりたいものです。(岡)

三一 天の定規

教祖は、ある日飯降伊蔵に、

「伊蔵さん、山から木を一本切ってきて、真っ直ぐな柱を作ってみて下され。」

と、仰せになった。伊蔵は、早速、山から一本の木を切ってきて、真っ直ぐな柱を一本作った。すると、教祖は、

「伊蔵さん、一度定規にあててみて下され。」

と、仰せられ、更に続いて、

「隙がありませんか。」

と、仰せられた。伊蔵が定規にあててみると、果たして隙がある。そこで、「少し隙がございます。」とお答えすると、教祖は、

「その通り、世界の人が皆、真っ直ぐやと思うている事でも、天の定規にあてたら、皆、狂いがありますのやで。」

と、お教え下された。

天の定規から見れば、人間は皆、多少の狂いがあるということ、目に見せて分かりやすくお教え下されたお話です。

人間は誰しも完璧ではありませんし、完璧になることもできません。

だからこそ、天の定規を理想として持ち、少しでもそれに近づくような努力をすることが大切なのだと思います。

人に対して、その人の完璧でないところを指摘することは簡単です。しかし、自分自身もまた完璧ではありません。

人の完璧でないところが目について仕方がないこともあるかもしれませんが、その人の、自分より優れている部分を見ることで、学びとれる部分も数えきれないほどあるのではないのでしょうか。